

劇団ことば座

ことば座は、「常世の国」の暮らしの歴史・文化を大切に考え、明日の希望の物語を朗読舞・朗読舞劇に表現する劇団です。朗読舞・朗読舞劇は、ふるさと常世の国に生まれた全く新しい舞台表現です。

朗読舞は、脚本・演出家の白井啓治が、茨城県石岡市に三年位の仮住まいにと越してきて知り合った聾者・小林幸枝の、豊かな動作表現と舞台俳優としての表現スケール感のあることに驚きと演出魂を触発されて、日本の古典芸能である人形浄瑠璃や能を基に創出した、全く新しい舞台表現です。



文章に書かれた朗読物語を、手話言語を基にした「心の舞い言語」に翻訳し、舞台上に圧倒的なスケール感で表現する小林幸枝は、常世の国のふるさと文化の宝です。

